

南無妙法蓮華經の御題目とは

どの宗教にも教義のエキスを表す御題目があります。

南無妙法蓮華經

南無釈迦牟尼仏

南無阿弥陀仏

南無大師遍照金剛

南無觀世音菩薩

アーメン（かくあらせたまえ）も神に身を任せると意味で御題目だと思います。

等々

【南無】

仏教を踏襲する各宗各派の御題目は、殆んど頭に【南無】が付きます。

この【南無】は漢字で南に無いと書きますから、世間では、じゃあ東、西、北に有るのかと考える人がいますが、この南無はインドから中国へ仏教が渡来して来た時、ナマという発音に聞こえたのであります。今でも仏教文化の強い影響を受けた東南アジアの国々では、日常の挨拶を【ナマステ（南無三寶<仏・法・僧>）】と、交わします。これはとても尊い挨拶だと思います。日本の、おはよう、こんにちは、こんばんはの挨拶は、ただ時間帯を表現しているだけで、何の心情的メッセージはありません。ちなみにグッドモーニングも同じ類であります。このナマを漢字に翻訳する折に、そのまま音写して、ふりがなを付ける様に南無という漢字を当てはめたのであります。ですから南無には漢字としての意味は無いのであります。ではナマ南無は、どういう意味かということ、帰依帰命を表現しているのであります。

帰依帰命とは、命懸けで信じます。自分の命として大切にします。という意味です。

南無妙法蓮華經とは、妙法蓮華經を命懸けで信じます。妙法蓮華經を自分の命として大切にします。という事になります。南無阿弥陀仏は阿弥陀如来を命懸けで信じます。という意味になります。社会には、仏教は皆、教えの内容は同じはずだと思っている人が沢山いますが、南無する対象が違えば全く違う価値観目的観の教えになるのであります。

【妙法】

妙は不思議を示しています。この不思議は手品の様な不思議さを言っているのではなく。美しい音色を妙なる音色と表現したり、女性の名前で妙子という名前を見聞します。これは授かった大切な子供が人生の中で、親の手の届かない所でも不思議な良縁に恵まれ、たくさんの人に助けられ、支えられ、守られて、幸せな人生を送って貰いたいという親心から付けられる名前で、良い意味合いの不思議さを示しているのであります。

仏の一番の最大最高の目的は、【一切衆生の成仏】であります。誰もが平等に仏に成る事が出来る法を一切衆生に説き伝える事が仏の目的であり責任であり使命であります。その意味から法華經は、法華經以前に説かれなかった、悪人、女人、人間以外の生命の成仏

という、事を初めて説き切った法であります。つまり仏にとって一番の不思議な法は、悪心、迷心を抱く衆生でも成仏する事が出来る法なのであります。法華経以前の經典では悪心、迷心を持つ者は、生まれ変わり死に変わり修行して、完全に悪心、迷心を断尽したら成仏出来るということを説いておりますが、煩惱は、私達の体から出て来る垢と同じで、隅々まで洗って綺麗になったと思っても、洗い残しが有ったり、綺麗にした瞬間から、又垢が出て来るのであります。綺麗になったまま維持固定化する事は出来ないのであります。それを求める事は不可能な事なのであります。退治しても退治しても次から次に湧き起こる煩惱を持った凡夫に対し実現不可能な理想論を押し付けて説いていたのであります。それが、法華経に於いて、迹門においては、まだ男性女性、善人悪人、人間と人間以外の生命等の差別区別の名残がありますが、本門においては、全ての差別区別の条件制約を撤廃し、全ての生命の絶対の平等を説き、煩惱を抱えたままの凡夫の現実に即した成仏を、この南無妙法蓮華経の法を信ずるという唯一の条件だけを絶対として説示したのであります。

この、凡夫の成仏が、仏からの一番の不思議、【妙】であり、その道理を示した【法】だから【妙法】というのであります。

【蓮華】

【妙法】を説明する為に仏は一切衆生に【蓮華】の華を譬えとして説明しました。一般的な花は、花が咲いた時に、花の真ん中に雌蕊、周りに雄蕊があり、風や虫で受粉され、花が散った後に次の代の実（種）が結ばれます。しかし、蓮華の華は、華の真ん中に雄蕊雌蕊は無く次の代の種が華が咲くと同時に存在する華であります。結果として咲いた花と原因となる種が同時に具わる。つまり、私達の生命も、これと同じで私達の両親が結婚した事が因となり、私達が果として生まれ、私達が因となって、子供が果となって産まれる。つまり私達の生命には因と果が同時に具わり、因果・因果・因果と永遠常住、無始無終に全ての生命が繋がり、全ての生命が支え支えられ合って生きているのであります。神や仏の様な特別な存在が創造したものでは無いのであります。全ての生命は仏の生命とも、地獄の生命とも、十界互具して繋がっているのであります。これこそが生命である。という事を命題として唯一説いた教えという事で、

【経】

とし、【南無妙法蓮華経】の御題目と、この御題目を明確に信、不信の一切衆生に伝える為に【南無妙法蓮華経】の本尊を、日蓮大聖人は、国家権力によって頸を切られる寸前まで行った龍ノ口法難直後に、初めての本尊を顕し始め、釈尊を本尊とする信仰から、釈尊が悟った釈尊の中味である南無妙法蓮華経の法を本尊にするのであります。

つまり、南無妙法蓮華経は、一切の諸仏諸菩薩の中味の本質であり、同時に、私達一切衆生の本質である生命そのものを表現しているのであります。だからこそ、自分の生命の本質を示している法に、自分が帰依帰命し、生命を掛ける事は当たり前の事なのであります。

南無阿弥陀仏や南無大師遍照金剛、南無釈迦牟尼仏は、どれだけ、その仏に命を懸けると、その仏を信じて、その仏の中味が何か、凡夫の私達に伝わって来ない為、ただ、

救って下さい、助けて下さい、守って下さいと頼るだけで、自分の生命に具わる仏の生命を自覚する事は永遠に不可能なのであります。一切の諸仏諸菩薩が信心修行し悟った法を凡夫も信心修行しなければ、一切の諸仏諸菩薩と同じ様に成仏は出来ないなのであります。日蓮大聖人は自分の心の外に法を求め仏を求め浄土を求めるのでなく、自分の心の中にこそ法があり仏があり浄土（成仏の境涯）がある。それが本当の一切衆生成仏の一切の諸仏諸菩薩の目的と使命と責任に合致する信仰であると説かれるのであります。

日蓮大聖人だけが法を本尊とし、他の全ての宗教宗派は、それぞれの各仏を本尊にしているのであります。